

東大研修を終えて

私は初めての集まりの時期期待を胸に望みました。それと同時に同じ夢を抱いた仲間ができることにワクワクもしていました。そうして向かえたメンバー発表の会に不安と緊張で一杯だったことを今でも覚えています。いざ同じ班になった人を見渡すと、知らないひとばかりでさらに自分の気持ちが落ち込んでいたと思います。それから休み時間などを使ってメンバーと話し合いを進め、順調にことが進みました。そのなかで自分に気が合うメンバーも見つけ今でも親しくさせてもらってるほど仲良くなりました。このように班員との出会いや、下準備はとてもうまくいきました。他にも準備は進み、万全の体制となり、かつて抱いていた不安や緊張は期待へと変わっていきました。

向かえた当日、東京につくと見上げるほどのビル群に迎えられはじめの企画である「三井住友重工でのディレクトフォース」が始まりました。入場には専用のカードが必要と言うことで、身が引き締まります。まずはじめに、二高 OB の先輩方からのお話で、「できる人」であることは予想していましたが、それを遥かに上回るほどの方々でさすがひとの上になたって仕事をしているだけあって、経歴だけを聞いても「こんな若いのにここまでできるのか!」と、驚かされるようなものばかりでした。そして、そのあとに話される二高時代の生活も素晴らしいものがあるだろうと予想をしていました。が、しかしその予想に反した答えが帰ってきました。中には自分と同じ部活の先輩もいて共感できる部分があったり、今の二高生とあまり変わらないものも多くてとても親近感がわきました。そうして、日本のトップ企業に勤める本当に「できる」人は他人に親近感を沸かせながらも、内にはすごい能力を秘めているひとのかなと感じさせられました。続く会談でも、OB の先輩からは外交的、社交的なイメージを感じながらも、発せられる言葉には年齢とはほど遠いほどの重みを感じれました。そして、班員とも意見を交わし今まで気軽に話していた人達がここまでの意見を持っているんだ、と感心し改めて二高の素晴らしさに誇りを感じました。さらにディレクトフォースの方々との会合ではさらに大きな衝撃を受けました。その方々は国民的な大企業のなかでも、重役を勤めていた方々でした。この会ではここまで出てきた班の意見をまとめることが目的だったのですが、再度全員の意見を確認するなかで同席させていただいた方の意見を聞くことができました。中身は一言だけなのですが、意見をまとめるのに困っていた私たちを一瞬で解決へと導きました。それは「自己相対化」という聞いたことのない言葉でしたが、長年企業を導いてきた経験から正確に導き出された言葉だったと思います。余談ですが、その方の人生の転機とほとんど変わらない転機を私も体験してなにか感じるものがありました。そして、そのように1つ1つの経験が人生を左右し、素晴らしい未来へと導くのだと、そのために1つの経験でも大切にしていこうと感じました。本題に戻りますが、とても貴重な密度の濃い時間をすごせ、未来への大きな糧になることをたくさん学べました。

ディレクトフォースが終わると、企業大学訪問がはじまり、ここからは班ごとに行動することになり、再度自分の意識を引き締めました。私たちは渋谷で昼食をとりました。東京名物、とまではいかなくとも有名なパンケーキを食べることにしました。この時後に起こる事件をまだ知らない。食後に渋谷から訪問先へ向かう途中で、道のりを調べてみると、どうしても走らなければならなくなりました。しかし、ついさっき食べたパンケーキにより胃が気持ち悪くなり、男子全員が吐き気を催したのである。走る途中は辛い思いをしましたが、特に悪化や怪我などには至らず無事に訪問先へ到着した。

訪問すると、とても立派な外観に気圧されました。事前に会社のことについて調べていて、先進的な医薬品を開発している研究所であることは認知していたのですが、いざ訪ねてみるとやはり特徴的な構造に興味を持ちました。研究棟と事務棟それに中庭に別れておりより、研究に集中しやすくなっているとのことでした。訪問後早速副所長の先生から講義を受け、キリンについてだけでなく、さまざまな薬学の知識を学びました。具体的には薬の分類や、簡単なメカニズムなどでした。続いて研究棟の案内が始まったのだが、ID カードに、「危険物」

の文字が目飛び込んできました。さすが先端に行く研究所であると感じると共に、一気に緊張が走りました。案内が始まると、いくつかの疑問が湧いてきました。見渡す限り 20~30 代の研究員しか見つからないのです。先進的な研究をしている「キリン」には長年経験を積んできた先生がたくさんいるのが当然だと感じていた私にはどうも府に落ちません。伺ってみると、やはり他の研究所よりも平均年齢が低いとのことでした。また、至るところにホワイトボードが置いてありました。こちらは思い浮かんだアイデアを他の研究員のかたと共有したり、議論したりと職場の活性化を狙っているそうです。とてもきれいで開放的な内装もこの為なのかなと感じ、活躍を見てもその効果は確かに現れていると感じました。

最後に研究所に勤められて 5 年の研究員のかたに質問コーナーを設けていただきました。お話を伺っていくとやはり大変なことがいくつもあるとのことでした。「薬のたねが見つからないこと」や、「他社との競争に負けて長年の研究が台無しになること」などだそうです。確かにとおおくの薬が開発されるなか、同じ効果のものを創っても意味はなく、今までにないものを求められるはずです。そのためには、独創的なアイデアや他社に負けない競争力が必要であると感じました。

とても温かく迎えられたキリンでの企業訪問は、私に具体的な将来像を与えてくれました。また、細かいところまでご配慮いただき最高の体験となりました。

今回の研修を振り返ると、東京でお世話になった多くのかたがた、班の仲間そして、今回の研修を支えてくださった方にはとても大きな恩を頂きました。なんといっても班の仲間には仲良くしてもらい、不安で一杯だった研修をととても貴重な経験にしてくれ、大きな感謝をしています。やはり、この学校に来てよかったし、研修もとてもいいものになりました。一方で私自身はというと、私なりに地味なところで役を買ってでたり、事前学習やもちろん当日の研修でも自分のやりたかったことを達成出来ました。そして、全体の率直な感想としては、やはり、東京は日本一の都市で、最先端をいってるなというものでした。裏返せば、日本で最先端の研究するには東京に出ることが重要であるはずですが、しかし、今回お世話になったすべてのかたがたから感じた、どの分野でも関係なく最も必要とされるものを感じました。それは、倫理観、道徳心、誠実で社交的な態度の 3 つです。これから勉学に励み、今回学んだことを身に付け、いつの日か東京や他の大都市で働きたいと思うようになりました。そのために今回の研修は、欠かすことのできないものになったはずですが。